



■ 名 前 (ふりがな)	齊藤 正一
■ グループ名	明和町B & G海洋センター
■ 学校名	群馬県立板倉町高等学校
■ 学 年	3 年
■ 年 齢	17 歳
■ お手伝いしていただいた方の名前	館林市役所環境課の方・祖父

■ レポートした場所	館林城沼
■ レポートの題名	館林市城沼の水質浄化作戦
■ 内 容	<p>私の住む館林市は「鶴舞う形の群馬県」の東南部、ちょうど鶴の目のあたりにあり、関東地方のほぼ中央に位置しています。利根川と渡良瀬川の2大流域に挟まれた、大小の沼が点在する、低湿地帯の所です。</p> <p>特に城沼はその名のとおり、館林城のお堀として利用され、現在は、市役所、科学館、資料館、文化会館、高校、県立つつじヶ丘公園等、公共機関が囲むように立ち並ぶ市の中央にあります。</p> <p>祖父の話では、若かった頃は、市中を流れる支流の鶴田川と城沼を結ぶ所にかかるたいこ橋から飛び込んで泳げたほど、水がきれいだったそうです。また、全国的にも珍しい植物や生物が沢山生息していたと聞きました。</p> <p>しかし、現在の城沼は、市中の汚水が入りこむ鶴田川の影響を受け、特に夏になると、アオコが発生し、水はよどみ、異臭まで放つようになっています。モズクガニやキンブナも減り、環境庁の絶滅危惧種にもあげられているカンエンガヤツリや、ミズアオイなどの貴重な植物もなかなか見られなくなりました。市では、ヘドロの除去や噴水を設置、排水溝の整備、重機械を使って水の浄化に取り組む等、努力してきましたが、なかなか成果があがらなかったようです。</p> <p>そこで、最近見直されてみた、自然再生能力をいかした天然資源を利用しての試みを始めました。いろいろな水質浄化力のある植物を数種類選別して、特別のセットを作り種別に設置、その効果をみようとして試みています。幸い今年は冷夏で降雨も多く、城沼の汚染も例年ほど、ひどくはありませんでしたが、早くこの実験の成果が出て、環境にやさしい浄</p>

化機能として、役に立つようになったらよいと思います。

これからの私達世代にとって大切なのは、自然が与えてくれるいろいろな宝物を壊さないよう、保存し、生かし、利用することが大切なのではないでしょうか。リサイクル、自然保護が叫ばれている今、この水質浄化の作戦が成功して環境問題に寄与できることを期待したいと思います。

40～50 年前



現在

